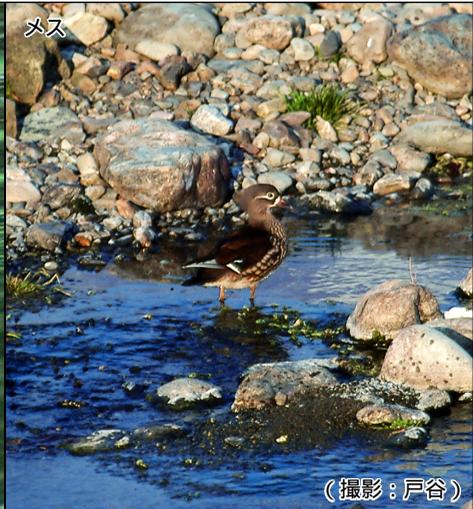


オシドリ *Aix galericulata* (鴛鴦)



識別のポイント ・オスは大きなイチョウ羽根を持つ美しいカモ。

大 き さ：ハトより大きい
 生息環境：山間の湖沼、溪流
 繁殖場所：森林内の樹洞
 餌：木の実、昆虫など
 鳴 き 声：「ケェ」「グァッ」など

天竜川における生息時期

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

繁殖期

渡り区分：冬鳥（一部留鳥）

一般習性・分布

- ・周りが樹木で囲まれた池や湖を好み、木の上によくとまる。
- ・林の中の地上でドングリなどの木の実を採食することが多い。
- ・日本全国の山間部などで繁殖するが、冬に北方から渡ってくるものも多い。木の洞の中や、時には巣箱に営巣する。
- ・一般に「おしどり夫婦」といわれるが、生涯つがいを保ち続けるわけではなく、原則としてつがいは毎年変わる。「おしどり夫婦」の由来は、冬から早春の求愛行動が美しく、産卵期まではつがいが寄り添うように行動するためである。他のカモと同様、子育てはメスが単独で行う。
- ・オスは、春から夏にかけてはメスと同じ様な羽色になる。

天竜川上流における生息状況

本川沿いの樹林内でも少数が繁殖している可能性があるが、詳細は不明である。秋から春にかけて、特に11月と4月の渡りの時期に、20～30羽程度の群れが見られることがある。平岡ダムの上流や松川町鶴部付近、吉瀬ダム付近などに多い。



マガモ *Anas platyrhynchos* (真鴨)

マガモの群れ



(撮影：戸谷)

識別のポイント

- ・頭が緑色の大型のカモ。
- ・冬に大群になることが多い。

大きさ：カラスくらい

生息環境：河川、湖沼、水田など

繁殖場所：水辺の植物群落中

餌：草の実、水草など

鳴き声：「グァー」「クァッ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

渡り区分：冬鳥（一部留鳥）

一般習性・分布

- ・湖沼や川などにすみ、都市の公園の池などにも生息する。
- ・本州中部では少数が繁殖する。冬にダム湖などに大群で見られるのは、北方から渡ってきたものがほとんどである。
- ・巣は水辺の草むらやヤブの下に造り、子育てはメスのみが行う。
- ・家禽であるアヒルの原種。公園の池などにいる場合、野生化したアヒルとの識別は困難である。

天竜川上流における生息状況

天竜川上流では、カルガモと並んで最も普通に見られるカモである。飯田以北の本川内では繁殖しており、一年中見られる。駒ヶ根では、高水敷内を流下する小流路脇の草本の株中に営巣している例が観察された。冬は平岡ダム、吉瀬ダム等のダム湖に100羽以上の群れが見られるほか、全域で10数羽程度の小群が普通に生息する。

天竜川上流における分布



カルガモ *Anas poecilorhyncha*(軽鴨)

カルガモの親子

(撮影：戸谷)



(撮影：山上)

識別のポイント

- ・くちばしの先が黄色く、足が朱色の大型のカモ。
- ・一年中、普通に見られる。

大きさ：カラスくらい

生息環境：河川、湖沼、水田など

繁殖場所：水辺の植物群落中

餌：草の実、水草など

鳴き声：「ゲッグェッ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分：留鳥（一部冬鳥）

一般習性・分布

- ・一年中、最も普通に見られるカモ。褐色を基調とした地味な羽色で、冬も変化しない。
- ・川、湖沼、水田など、様々な水辺にすみ、都市の公園の池にも生息する。
- ・水辺の草むらの地上や株上に営巣する。一時期、東京の「カルガモ親子」がブームになったが、カルガモのメスがたくさんのヒナを連れて歩く光景は、田園地帯などでは普通に見られる光景である。

天竜川上流における生息状況

全域でごく普通に見られるが、冬はマガモやコガモの数が劇的に増加するため、かえって目立たなくなる。平岡ダムや吉瀬ダムなどのダム湖にも10数羽の小群がみられるほか、飯田、伊那、辰野付近など、平地の開けた場所の中洲や河岸の水際などで休息しているものも多い。警戒心が比較的強い。

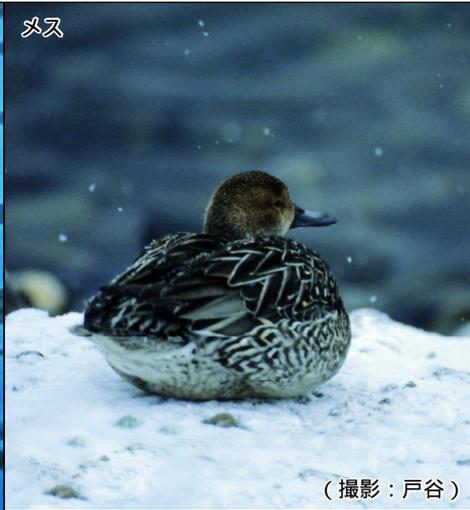
天竜川上流における分布



コガモ *Anas crecca* (小鴨)

オス

(撮影：松村)



メス

(撮影：戸谷)

識別のポイント

- ・オスの頭に緑とレンガ色の模様がある小型のカモ。
- ・オスは「ピリッ、ピリッ」と鳴く。

大きさ：ハトくらい

生息環境：河川、湖沼、休耕田など

繁殖場所：(日本で繁殖することは稀)

餌：草の実、水草など

鳴き声：「ピリッ、ピリッ」(オス)

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

渡り区分：冬鳥

一般習性・分布

- ・冬鳥として各地の川、湖沼などに渡来する。渡来数は多い。
- ・本州では上高地で繁殖すると言われている。水辺の草むらの地上に営巣する。
- ・カモ類は一般に夏の短い寒冷地で繁殖する種が多く、越冬地でつがい形成する。このため、ヒタキ科などの小鳥類と逆に、秋から冬に美しい生殖羽に換羽し、越冬地で、メスをめぐる美しいオスの求愛合戦が繰り広げられる。つがい形成され、繁殖地に移動するとオスはメスと同様の羽色(非生殖羽)に換羽する。

天竜川上流における生息状況

マガモ、カルガモに次いでごく普通に見られるカモである。渡来時期は早く、9月中旬には渡来し、本川内の草むらや小流路の陰に潜んでいる。換羽が完了し、オスが生殖羽になると開けた水面に出てきて盛んに求愛行動を行う。繁殖地への飛去も遅く、5月中旬まで滞する群れもある。

伊那市の天竜川では夏(7月)にも記録があるが、繁殖の確認は得られていない。

天竜川上流における分布



ヒドリガモ *Anas penelope* (緋鳥鴨)

オス(下)とメス(上)



(撮影：戸谷)

識別のポイント

- ・オスは頭が栗色で、額に特徴的なクリーム色のマークがある中型のカモ。
- ・オスは「ピューィ」と鳴く。

大 き さ：ハトより大きい

生息環境：水辺、休耕田など

繁殖場所：(日本では繁殖しない)

餌：草の葉、実、水草など

鳴き声：「ピューィ」(オス)

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



渡り区分：冬鳥

一般習性・分布

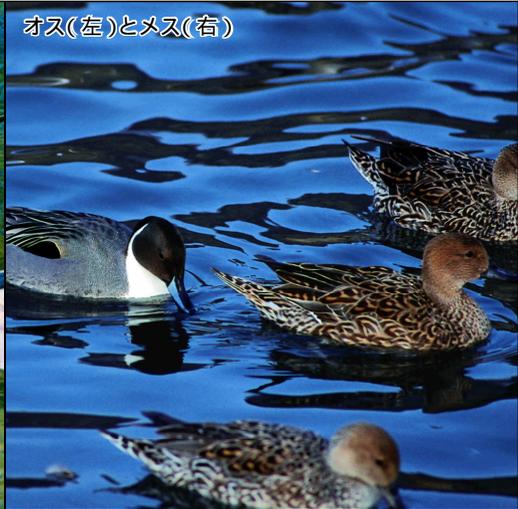
- ・冬鳥として大きな川や湖に多数渡来する。
- ・水草などをよく食べ、アオノリの産地では養殖場ではしばしば食害を起こす。内陸では、岸が上がって陸上の草を食べることも多い。
- ・一般にカモ類は越冬地で求愛行動を行い、つがいを形成する。そのポーズの取り方は種によって異なるが、共通のパターンとして、1羽のメスの周りを数羽のオスが囲み、美しい羽根や模様を誇示する姿勢をとる。大抵はリズムカルなダンスのような動きをとる。

天竜川上流における生息状況

天竜川ではあまり数は多くないが、秋に10羽前後の群れが全域で見られる。コガモやマガモと共に行動していることが多い。

天竜川上流における分布



オナガガモ *Anas acuta* (尾長鴨)

識別のポイント

- ・オスはこげ茶色の特徴的な頭の模様と長い尾羽根で容易に識別できる。首もやや長い。
- ・メスも、他のカモに比べ尾と首が長め。

大きさ：カラスくらい

生息環境：水辺

繁殖場所：(日本では繁殖しない)

餌：草の実、水草など

鳴き声：「ピリッ、ピリッ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

渡り区分：冬鳥

一般習性・分布

- ・冬鳥として全国の湖沼、広い河川などに集まる。特に湖のような広い開水面を好み、流れのある場所では少ない。
- ・逆立ちして水中の餌を採ったり、水面に浮いた餌をすくいとる。
- ・餌付けに順応しやすく、白鳥の渡来地で餌付けを行っている場所では、オナガガモが過密状態で集まっていることが多い。
- ・カモ類は餌のとり方によっていくつかのグループに分けられる。オナガガモは、ほとんど潜水せずに水面に浮いた餌をとったり、逆立ちして水底の草を食べたりするグループである。天竜川で多く見られるカモのほとんどがこれに属する。潜水するグループにはミコアイサやカワアイサなど、泳いでいる魚や貝類を捕らえる種が挙げられる。

天竜川上流における生息状況

本川では数が少ない。主として上流側の伊那や辰野付近の河原に、10羽程度の群れが見られる。

天竜川上流における分布



ミコアイサ *Mergus albellus* (神子秋沙)

オス(左)とメス(右)



(撮影: 戸谷)

識別のポイント

- ・オスは白と黒の特徴的な色彩を持つ小型のカモ。
- ・よく潜水する。

大 き さ : ハトよりやや大きい

生息環境 : 湖沼、河川

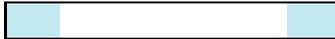
繁殖場所 : (日本では北海道のみで繁殖)

餌 : 魚など

鳴 き 声 : 「フィー」など・あまり鳴かない

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



渡り区分 : 冬鳥

一般習性・分布

- ・冬鳥として渡来し、内陸の湖沼、広い川の上流、入り江などで冬を越す。習性が海ガモ類に似るが、海上には少ない。
- ・大群になることがなく、比較的警戒心も強いいため、人目に付きにくい。しかし、オスの姿は白と黒のコントラストが美しく、バードウォッチャーからはバンダガモなどと呼ばれ親しまれている。メスも栗色を基調とした美しいカモである。
- ・水面を身軽に泳ぎ、よく潜って魚を捕らえる。

天竜川上流における生息状況

数は少ないが、主として辰野や伊那市付近で見られる。諏訪湖では毎年確認されており、これらの個体は諏訪湖から移動してきているものと考えられる。下伊那では稀である。

天竜川上流における分布



カワアイサ *Mergus merganser*(川秋沙)

(撮影：戸谷)



(撮影：山上)

識別のポイント

- ・水に浮いていると身体が長くて平たく見える。くちばしが細長い。
- ・よく潜水する。

大きさ：カラスより大きい

生息環境：湖沼、河川

繁殖場所：(日本では北海道のみで繁殖)

餌：魚など

鳴き声：「アーフォー」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

渡り区分：冬鳥

一般習性・分布

- ・冬鳥として広い河川や湖に渡来する。数羽から100羽以上の群れでいることが多く、海に出ることは少ない。
- ・カモ類としては大型で、水に浮いているときは背中が扁平に見え、尾がほとんど水中に沈んでいる。
- ・ミコアイサやカワアイサなどのアイサガモ類は、潜水して水中を巧みに泳ぎ回り、魚を捕らえる。
- ・危険を察知すると、飛び立たずに潜って逃げるが多い。

天竜川上流における生息状況

近年になって、下伊那を中心として頻繁に確認されるようになった。特に平岡ダム付近や南宮大橋付近などでは、10数羽の群れが越冬している。上伊那では確認されていないが、諏訪湖では毎年越冬している。

天竜川上流における分布

